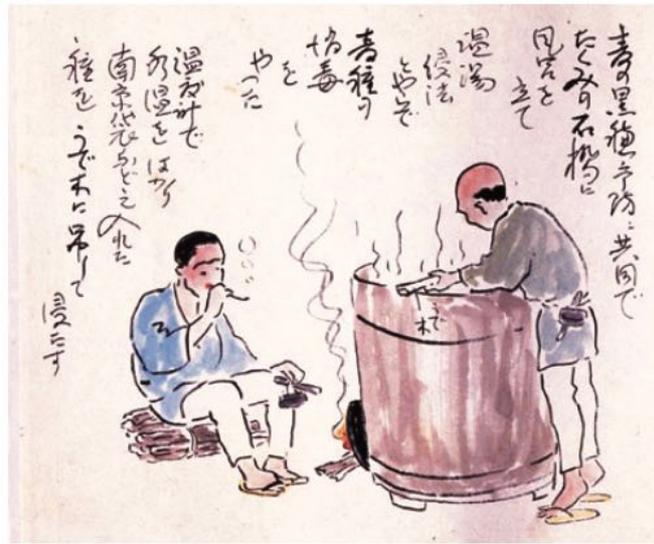




# 高橋余一の「生活絵巻」



上の絵に書かれた文章

麦の黒穂予防に共同で  
たくみの石橋に  
浸湯  
浸法  
とやそ  
考種  
考毒  
ゆつた  
温か計で  
外温をはかり  
南京袋などえ入れた  
種をつで木に吊して浸たす  
うで木

## 34 麦種の消毒

昭和40年代ごろまで、秋に稲の収穫が終わると、田や畑で麦を育てていました。白米だけのご飯は祭りや祝い事するときだけで、普段は大麦をまぜた麦飯が主食でした。米だけでは一年分の食糧を賄うことができなかったためです。また、小麦はうどんにして食べました。麦をまくのは11月ごろで、冬を越して春の田植え前に収穫しました。

絵巻には、病気を防ぐため、種まき用の麦を湯で消毒する様子が描かれています。病気がかかると穂が黒くなったり、葉が白くしなびて枯れてしまったりすることがありました。また葉同士がくっついてしまい、穂のつく茎が少なくなったり、穂に実が入っていないかかったりすることもあるほか、収穫を迎える時期にヒョウが降ると、穂首がたたかれてちぎれてしまうこともありました。

収穫は6月半ばごろで、梅雨の時期と重なるため、穂の乾いている晴れた日を見極めて行いました。